

魔法のmedicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：杉浦真人(滋賀県総合教育センター 石垣秀憲・竹内佳緒里)

所属：滋賀県立長浜北星高等養護学校 記録日：2021年1月29日

キーワード：生活支援、1人でできる、見通し、自信、家庭との連携

【対象児の情報】

○学年：高等部1年

○障害名：知的障がい

○障害と困難の内容

<生活面>

- ・物を片付けたり整理整頓をしたりすることが苦手。
- ・やらなければならないことは分かっているが、持ち物の準備や宿題の提出等が難しい。声かけや支援が必要。

<学習面>

- ・自分のペースで学習を進めていくことができるが、集中して取り組める時間は短い。
- ・話を集中して聞くことはできるが、覚えることがいっぱいになると集中が切れ、覚えられない。

<社会性>

- ・言葉でのコミュニケーションは取れるが、自分の思いを的確に言語化したり整理して伝えたりすることは難しい。また、言葉だけでの指示理解は不十分な時があり、文字等の視覚的な手がかりがあると理解しやすい。
- ・慣れていない場面では、主体的な関わりや自分の思いを伝えることが難しい。
- ・大勢の場や緊張する場面になると、動けず喋れなくなってしまうことが多い。声かけや支援をすると、自分の意思をうなずきや首振りなどで伝えることができる。
- ・状況を整理したり振り返りをしたりすることが難しい。

【活動目的】

- ・当初のねらい

(1) 先の見通しをもち、持ち物の準備をしたり期日までに提出物を出したりする。

(2) 活動の予測をする中で、落ち着いて学校生活を送る。

- ・実施期間：令和2年6月～令和3年3月31日

- ・実施者：杉浦真人

- ・実施者と対象児の関係：学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・身の回りの整理整頓ができず、どこに何を置いているか分からなくなり、持ち帰った宿題や学校用品等の管理をすることが難しい。また、自宅で翌日の学校の準備をする際に、準備物の場所・必要な準備物・準備方法等が分からないことから、1人では学校へ行く準備が十分にできず、忘れ物をしてしまう。
- ・宿題は、取り組まなければならないことは分かっているが、途中で集中が切れて中途半端になってしまい完成できないことが多い。また、何をいつまでに取り組み、いつまでに提出しなければならないか等、すべきことの把握や順序立てが難しい。
- ・宿題やその他の提出物は、提出しなければならないことは分かっているが、必要な提出物・提出する場所・提出方法等の具体的な内容が分からず、提出できないことが多い。

- ・困ったこと、不安なこと、心配なこと、何をしたら良いか分からない等があると、その場に立ちすくんでしまい、何も言えなくなることが多い。また、伝えようとしても、自分の思いをまとめて話すことは難しい。
- ・自分なりに、いろいろとできない自分の姿を感じており、本校に入学した時の思いとして、「勇気を出せるようになりたい」と話した。

○活動の具体的内容

本人の困りや願いを聞き取りながら、本人と一緒に今後の目標について考えた(図1)。そして、本人の願いを目標として、それを実現するためにどう取り組んでいくか話し合った。そして、そのために、iPadを取り入れ、いつ、どこで、どのアプリを使い、何をするのか、本人が分かって取り組めるように「1日の流れ」表を作成した(図2)。作成した「1日の流れ」表は本人、学校、家庭で共に確認した。また、自宅の自室に印刷したものを貼ったり、縮小した物を筆箱の中に入れてたりして、本人が容易に確認しながら取り組めるようにした。

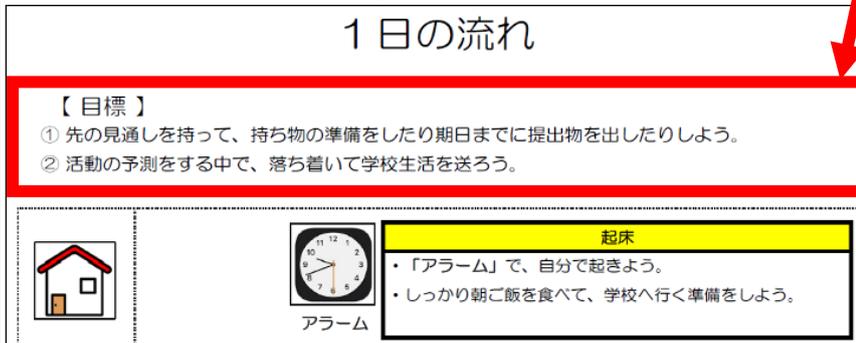


図1 「1日の流れ」表に示した目標



図2 「1日の流れ」表

(1) 「先の見通しをもち、持ち物の準備をしたり期日までに提出物を出したりする」ための取組

表1 「先の見通しをもち、持ち物の準備をしたり期日までに提出物を出したりする」ための ICT 活用による取組の一覧

場所	目指す生徒の姿 (目標)	取組の内容	使用したアプリ	使用した時間帯
学校	自分の思いを相手に伝える。	・不安や心配なことを入力しよう。 ・「メモ」を見て先生に伝えよう。	メモ	適宜
学校	登校後にすべきことを1人で行う。	・「登校後にすることリスト」を見る。 ・リストをチェックしながら行動しよう。	リマインダー	登校後
学校	翌日の予定や持ち物等を確認する。	・「持ち物のリスト」「宿題や提出物のリスト」を見る。 ・持ち物や宿題、提出物をリストに入力しよう。	リマインダー	下校前
家庭	翌日の持ち物の準備をしたり宿題をしたりする。	・「帰宅後にすることリスト」を見る。 ・リストをチェックしながら準備をしよう。	リマインダー	帰宅後
家庭	忘れ物がないように学校へ行く準備をする。	・「持ち物リスト」を見る。 ・リストをチェックしながら、学校へ行く準備をしよう。	リマインダー、 ※Checkie!	登校前
家庭	一定時間、集中して宿題に取り組む。	・宿題の取り組む時間を「アラーム」に設定しよう。 ・「アラーム」がなるまで、宿題に取り組もう。	リマインダー、時計、絵カードタイマー、 ※ねずみタイマー、※集中	帰宅後

※は、本人と相談して追加していったアプリ

(2) 「活動の予測をする中で、落ち着いて学校生活を送る」ための取組

表2 「活動の予測をする中で、落ち着いて学校生活を送る」ための ICT 活用による取組の一覧

場所	目指す生徒の姿（目標）	取組の内容	使用したアプリ	使用した時間帯
学校	1日の流れを確認する。 宿題や提出物の期限を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間割&宿題」やホワイトボードを見ながら時間割を確認しよう。 ・「カレンダー」で、行事やその他の先のスケジュールを確認して、見通しをもって生活しよう。 ・「写真」で画像や動画を見て、活動の見通しをもとう。 	時間割&宿題、 写真	適宜
学校	先の見通しを持って学校生活を過ごす。	<ul style="list-style-type: none"> ・「カレンダー」で行事やその他のスケジュールを確認して、見通しをもって生活しよう。 	カレンダー	適宜
学校	不安や心配なことを相手に伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や心配なことを入力しよう。 ・「メモ」を見て、先生に伝えよう。 	メモ	適宜
学校	できたことやうまくいったことを振り返り、自信を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・できたこと、うまくいったことの振り返りをしよう。 ・次に頑張りたいこと、やってみたいことを考えよう。 	SimpleMind	放課後
		<ul style="list-style-type: none"> ・「持ち物のリスト」「宿題や提出物のリスト」を見る。 ・持ち物や宿題、提出物をリストに入力しよう。 	リマインダー	下校前

○対象児の事後の変化

(1) 「先の見通しをもち、持ち物の準備をしたり期日までに提出物を出したりする」ための取組

(1)-1 持ち物や提出物を確認し、準備をする

<6月〜>

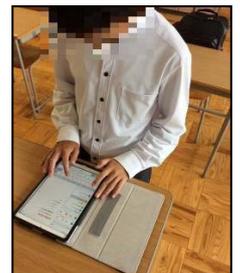
登校後や帰宅後等の流れを確立するために、アプリ「リマインダー」に『登校後にすること』『帰宅後にすること』のリストを作成し(図3)、学校や家庭で、毎日、決めた時間にリストを確認して行動したりリストに項目を入力したりする取組を行った。



図3 「リマインダー」のリスト

登校後の流れの中で、宿題や提出物を提出するようにし、下校前に教師と一緒に翌日の予定や持ち物、宿題等を確認して、『持ち物』『宿題や提出物』のリストに入力し(図4)、家庭でリストを確認しながら持ち物の準備をしたり宿題をしたりできるようにした。

図4 下校前に、翌日の予定や持ち物、宿題等を確認する様子



家庭にも協力を得て、図5のように家庭の環境も整理してもらった。「1日の流れ」表は家でも本人が見やすいところに置き、いつでもそれを確認できるようにした。ここでは、図2の1日の流れの表を、家庭でも本人の見えるところに置いて、いつでも確認できるようにした。

持ち帰った
宿題を入れる

できた宿題や
提出物を入れる



図5 家庭の自室の環境整理



図2の「1日の流れ」表

登校後の流れに関しては、日めくりカレンダーをめくり**(取組(2)-1)**、アプリ「リマインダー」を確認しながら登校後にすることをを行う中で宿題や提出物等を提出するといった流れがすぐに定着し、取組3日後には教師の支援なしでできるようになったため、1人で取り組むようにした。

<7月〜>

アプリ「リマインダー」の項目は、本人・学校・家庭生活の状況に応じて追加したり変更したりしてきたが、「たくさんの項目が並んでいると、やる事がたくさんあるように見えて、やる気がなくなってしまおう」と本人が話してくれた。そこで、2~3つの内容を1つの流れとして項目を整理することで見た目の項目が少なくなるよう工夫した。

<8月〜>

本人から「朝の準備の時に使いたい」と伝えてきたため、本人が探してきたアプリ「Checkie!」(図6)を使用することにした。準備ができたなら該当するイラストをタッチしていき、全てタッチすると完了するという分かりやすいアプリで、アプリ「リマインダー」と併用していくことにした(図7)。

<9月〜>

アプリ「リマインダー」に入力することは習慣化されてきたが、それを確認することを忘れてしまうことがしばしばあった。そこで、「リマインダー」を確認するリストを作成して、位置情報により学校や家庭に近付くと起動する設定にし、「リマインダー」の確認をするきっかけとなるように工夫した。

<10月〜>

就業体験実習でも本人からiPadを使いたいと伝えてきたため、初めて校外に出る就業体験実習に向け、教師と一緒にアプリ「リマインダー」に実習時の持ち物や1日の流れのリストを作成した(図8)。実習時は、このリストを確認しながら、忘れ物や遅刻等することなく、実習を終えることができた。



図6 本人が探してきた「Checkie!」



図7 「リマインダー」を見ながら自宅で準備をする様子



実習の持ち物	実習の流れ
<input type="radio"/> 水筒	<input type="radio"/> 7:05 家 出発
<input type="radio"/> 実習日誌	<input type="radio"/> 7:30 駅 出発
<input type="radio"/> 実習服	<input type="radio"/> 8:04 駅 出発
<input type="radio"/> タオル	<input type="radio"/> 8:13 駅 到着
<input type="radio"/> 体育シューズ	<input type="radio"/> 9:10 実習先 到着

図8 就業体験実習に向けた「リマインダー」のリスト

(1)ー2 困ったとき等、自分の思いを相手に伝える

<6月～>

宿題や提出物等の提出ができていない時に、どう伝えれば良いか分からなくなったり、伝えたい内容がまとまらなかつたりして立ちすくんでしまうことがあった。そこで自分が伝えたいことをアプリ「メモ」に入力し、伝える前に「メモ」を見て確認したり、教師にそれを見せて伝えたりする取組を行った。しかし、「メモ」に入力することはできても、入力した「メモ」を自分から教師に見せることはできなかつた。また、教師から尋ねれば、自分の言葉で「忘れました」と答えたため、自分の思いを相手に伝えるために「メモ」に入力する取組は見直しを図った。

本人と話をする中で、取組(2)ー2にも「メモ」を使用して、入力したことを見せて不安や心配なことを相手に伝えるという取組があり、「メモ」の使用目的が分かりにくかつたため、十分に活用することができなかつたのだと分かつた。そこで、本人が伝えたいと思うことについては、何でも良いので「メモ」に入力することにした。

<8月～>

取組を進めるなか、アプリ「メモ」に「スパイクの注文をする」と入力してきた。入力した理由を聞くと、「自分が伝えようと思ったことをメモしてきた」と話してくれた。しかし、翌日、本人に、スパイクを発注する教員へ伝えられたかと確認をすると、「言えていない」と話した。そのため、下校前の振り返りのときに、「メモ」の内容を必ず確認し、入力したことがあれば、それを翌日伝えるために、どうしたら良いかを話し合うことにした。そのような本人とのやり取りを行うなかで、数日かかったが、自分で伝えることができた。このように、「メモ」に入力した内容は、自分の言葉で伝えられることを大切に取組を進めていった。

<9月～>

アプリ「リマインダー」の『登校後にすること』『帰宅後にすること』のリストに、アプリ「メモ」を確認するという項目を追加し、毎日「メモ」を確認することにした。すると、自分から「水やり当番の確認」と入力をしてきて、自分が忘れずにしようと思ったことを確認するために自ら活用する姿が見られた(図9)。



図9 自分がしようと思ったことを「メモ」に入力した

<10月～>

就業体験実習の事前面接に向け、実習先に話す内容をあらかじめ教師と一緒にアプリ「メモ」に入力をした(図10)。

初めての体験である事前面接の場面でも、「メモ」を頼りにしながら、それを見て1人で話をすることができた(図11)。

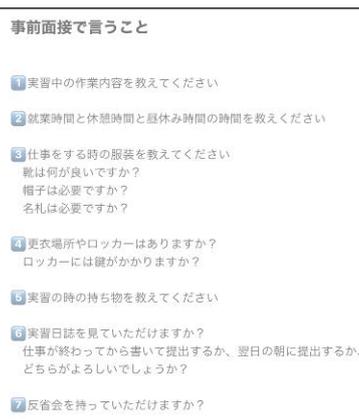


図10 事前面接に向けた「メモ」



図11 「メモ」を見ながら事前面接で話す様子

(1)ー3 一定時間、集中して宿題に取り組む

<6月～>

宿題の取組については、アプリ「時計」のアラーム機能を使って宿題を開始する時間を告げるよう設定した。アラームが鳴ったら本人が宿題を開始するようにした(図12)。宿題に取り組む間は、「時計」のタイ

マー機能やアプリ「絵カードタイマー」を設定し、タイマーが鳴るまでは、宿題に取り組むようにした。取組を進める中で、「今まではすぐに集中が切れてしまっていたが、15分集中して宿題に向かうことができた」と話してくれた。家庭では、母が声かけをしたりアプリへの入力への支援を行ったりすることでこれらの取組ができているとのことだった。

<7月〜>

家庭では図13のアプリ「絵カードタイマー」を使用して宿題をしていたが、「途中で休憩したい時に一時停止ができないため、宿題に集中することが難しい」と本人より申し入れがあった。そこで本人と相談し、本人が「これを使いたい」と見つけてきた図14のアプリ「ねずみタイマー」を使用することにした。本人はこのアプリがかわいいねずみのキャラクターで親しみやすく、使いやすいとのことだった。

また、起床時に使用していたアプリ「時計」のアラーム機能は、「iPadよりも自分のiPhoneの方が枕元に置きやすく使いやすい」との話をしてきたため、起床時のアラーム機能は、iPhoneで使用することにした。

このような取組を通して、家庭では、まだ母が声かけをしないとiPadを確認することを忘れてしまうこともあるようだが、本人は「アラームが鳴ったら宿題を始めること」、「アラームをかけて朝1人で起きること」は確実に1人でできるようになったと話してくれた。また、宿題の取組では、『「ねずみタイマー」を使うようになってから集中して宿題に向かうことのできる時間が15分から30分になった」と話してくれた。

<8月〜>

夏休み期間中は毎日日記を書く宿題を出し、普段の連絡帳と同じように毎日記入することを継続した。宿題への取組は母の声かけや支援が必要だったが、宿題開始を知らせるアプリ「時計」のアラーム設定は、自分でできるようになった。しかし、普段と違う夏休みの生活は、自分で設定した時間内を、集中して宿題に取り組むことができない日が目立った。数日あった登校日で、連絡帳は提出できたものの、そこに、記入ができていないことが目立った。これらは、普段の学校生活と違った生活によるリズムの乱れや疲れが原因だと考えた。

このような状態でも続けて取り組んでいくために、どうすれば良いかを本人と話し合った。すると本人が宿題に集中するために図15のアプリ「集中」を見つけてきた。さっそく、新たに取り入れることにした。このアプリを使うと今、何に集中しているのかが分かり、「頑張らないといけない」という強い気持ちになる」とのことだった。以前から使用していたアプリ「ねずみタイマー」と併用しながら宿題に取り組んでいくことにした。

また、連絡帳への記入は、下校前に教師と一緒に翌日の確認をしてアプリ「リマインダー」等に入力をする取組に



図12 家庭の自室にて宿題に取り組む様子

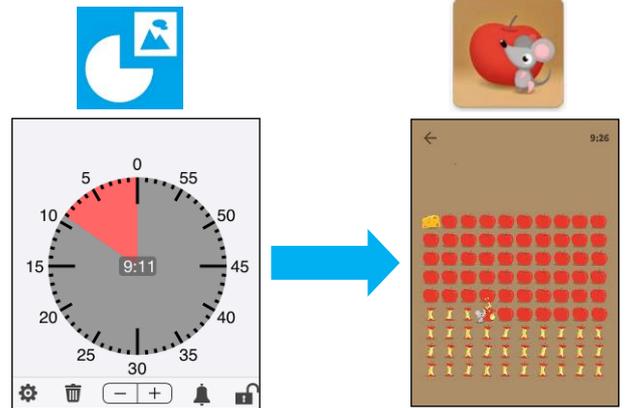


図13 「絵カードタイマー」

図14 本人が見つけてきた「ねずみタイマー」



図15 本人が見つけてきた集中するためのアプリ「集中」

図16 「リマインダー」に入力した勉強計画のリスト

併せて、連絡帳の日付や時間割を書いてから帰ることにした。すると、「連絡帳に日付や時間割が書いてあると、どこに日記を書けば良いのか分かり、疲れていても書こうという気持ちになる」とのことだった。

<11月～>

期末考査前に、本人が自主的にアプリ「リマインダー」に勉強計画のリストを作成してきた(図16)。30分集中して勉強ができるようになったことから、30分ずつ各教科の勉強時間を設定していた。今までは計画的に勉強を進めていくことが難しかったが、作成した計画の通りに勉強に取り組むことができた。

(2)「活動の予測をする中で、落ち着いて学校生活を送る」ための取組

(2)－1 見通しをもって学校生活を過ごす

<6月～>

初めてのことばかりの学校生活で、不安感や緊張感を持ちながら過ごす予測されたことから、本人が先の見通しを持って落ち着いて学校生活を送れるための取組を進めていった。毎日の登校後や下校前の一連の流れについては、(1)のアプリ「リマインダー」を用いた取組の中で、決まった流れを作っていた。

1日の見通しについては、時間割を入力したアプリ「時間割&宿題」や、時間割の書いてある教室のホワイトボードを見て、1日の流れを確認しながら過ごすようにした。

行事など、少し先のスケジュールについては、アプリ「カレンダー」に入力し、いつでも確認できるようにした。

また、毎日できる簡単な役割に取り組むことで学校生活のリズムを作っていくことができると考え、本人と相談をして、毎朝登校したら、玄関と職員室前にある日めくりカレンダーをめくる役割を行うことにした(図17)。



図17 本人と相談して決めた、日めくりカレンダーをめくる様子

<7月～>

1日の見通しを持つためにアプリ「時間割&宿題」を使用していたが、図18のようにアプリ「カメラ」で撮影したホワイトボードの時間割を見たり、自分で書いた連絡帳を見返して確認したりするため、あまり使用しなかった。また、宿題や提出物の期限の確認は、アプリ「リマインダー」と使い方が重複することから、「時間割&宿題」は使用せず「リマインダー」に統一することにした。



図18 「カメラ」で時間割を撮影する様子

<8月～>

学年で定期的に回ってくる花の水やり当番の日を忘れないように、自らアプリ「カレンダー」に入力をするようになった。その一方で、あらかじめ入力してある少し先の行事等スケジュールについては、あまり見ないとのことだった。当初考えていたほど、初めてする行事等への不安感や緊張感は少ないようだった。それより、水やり当番のように、自分が必要だと感じる先の予定について「カレンダー」に入力して確認できるようにすることにした。

<10月～>

延期となっていた体育祭や文化祭の日が決定し、それぞれの行事に向けた取組が開始されると、自分から各行事の日をアプリ「カレンダー」に入力した。少し先の行事予定はあまり見なかったのに、なぜ入力したのか尋ねると「行事の準備が始まったから行事の日を忘れないため」と話した。この姿から、実際に取り組みが始まると、いつその行事があるかということをおぼろげに忘れてしまいそうで心配になるということや、本人が「頑張りたい」「やり切りたい」といった思いがあり、そうした本人自身が必要だと感じる時に、自分から入力できるということが分かった。

(2)－2 不安や心配なことを伝える

<6月～>

先の見通しを持って生活する中で感じた不安や心配なこと等については、口頭で伝えたり、難しいようであればアプリ「メモ」に入力したりする方法で教師に伝えることにした。また、一緒に相談する中で、不安や心配等を解消する方法として、必要に応じてアプリ「写真」で画像や動画を見ることにした。毎日、下校前に1日の振り返りを行う中で、「この宿題はいつまでに仕上げればいいのか」「どう書いたら良いか分からない」等、不安や心配に思っていることを自分から口頭で伝えることができるようになってきた。内容によってアプリ「リマインダー」に入力をして、翌日に確認できるようにした。本人と教師との1対1の場面だけではなく、クラス全体の中でも挙手をして質問する姿が数回見られ、複数人いる場でも自分の思いを伝えることができるようになってきた。学校生活において、不安や心配から、表情が悪い、落ち着きがない等の様子は見られないことから、当初計画していたアプリ「メモ」やアプリ「写真」等のiPadのアプリを使用して伝える方法ではなく、不安なことは本人自ら口頭で伝えることで、解消していくことにした。

アプリ「メモ」を使った不安や心配なことを伝える取組と取組(1)－2との区別がつきにくく分かりにくかったため、取組(1)－2のとおり、自分が伝えたいと思うことについて何でも良いので「メモ」に入力することにし、「自分の思いを相手に伝える取組」として取組(1)－2に統一した。

(2)－3 できたことを振り返り、自信をもつ

<6月～>

(1)のアプリ「リマインダー」の取組では、毎日、下校前に翌日の予定や持ち物を確認することと合わせて、今日1日を振り返り、その日にできたことをその日中に本人にフィードバックするようにした。また、定期的にアプリ「SimpleMind」でできたことやうまくいったこと等の振り返りをし、少しずつできることが増えていく中で自信を持ち、次に頑張りたいことやできるようになりたいことを考えていく取組を行った。

<7月～>

アプリ「SimpleMind」で、できたことについて振り返りをする中で、「持ち物を忘れることが減った」「宿題が30分できるようになった」と話してくれた。持ち物を忘れることが減った理由として、「ロッカーや机の中をきれいに整理整頓できたから」「『リマインダー』で持ち物の確認をしたから」を挙げていた。また、宿題が30分できるようになった理由として、『リマインダー』で宿題は何かあるのかが分かったから」「『タイマー』で終わる時間が分かるから」を挙げた(図19)。アプリ「メモ」を用いて自分の思いを教師に伝えるための方法について、「僕は自分の言葉で伝えたい」と強い気持ちを話してくれた。アプリ「メモ」は自分の伝えたいことを入力して確認するためだけに使用し、伝えたいことは自分の言葉で伝えるようにすることにした。

<9月～>

振り返りの中で、「持ち物を確認して忘れ物が減った」「時間割や日記が毎日書けるようになってきた」「職員室に1人で入れるようになった」と話してくれた。忘れ物が減ったことや時間割や日記が書けるようになった理由として、『リマインダー』や『タイマー』を使ってできるようになった。習慣になってきた」と話してくれた。職員室への入室については、1人での入室ができず本人が困っていたため、友だちと一緒に入室して、伝えたいことを教師に伝える取組を自然な流れの中で意図的に設定し、繰り返してきた。徐々に友だちの支えを減らしていき、1人で入室して、伝えたいことが言えるようになってきたことから、「1人で職員室に入れるようになってきて、自信がついてきた」と話してくれた(図20)。

<11月～>

今まではアプリ「SimpleMind」に記入する内容は、「忘れ物が減った」「宿題ができるようになった」といった設定した目標と関係する事柄であったが、「大きな声で挨拶や返事ができるようになった」「話し合いで意見が言えるようになった」等、11月の内容では、“自分ができるようになった”と記入できることに、広がりが見られるようになった(図21)。なぜできるようになったのか尋ねると「気持ちが強くなったから」「勇気がついたから」と話してくれた。また、図22にある「お手伝いができた」ことについて家庭に確認すると、「今までは頼まれないと手伝いをしてくれなかったが、今は積極的に自分から声をかけてきてくれて手伝いをしてくれる」とのことだった。

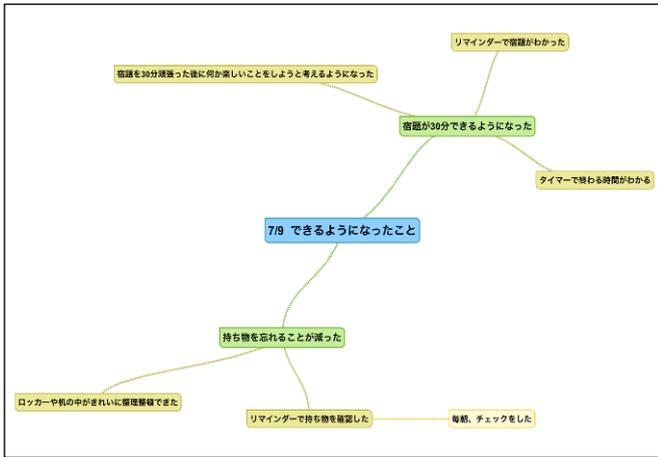


図 19 7月時の「SimpleMind」

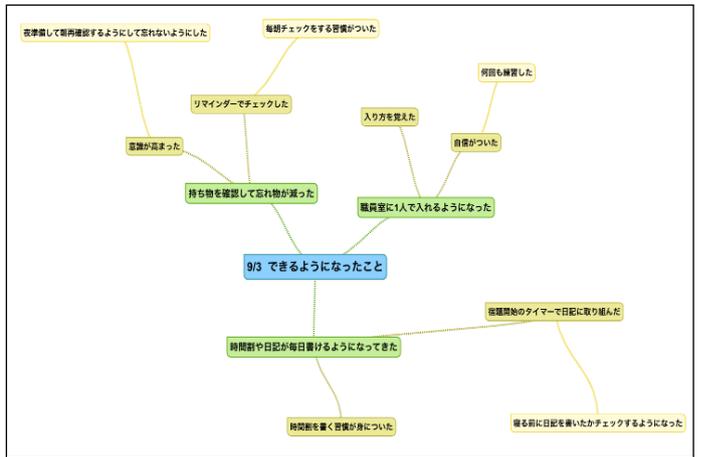


図 20 9月時の「SimpleMind」

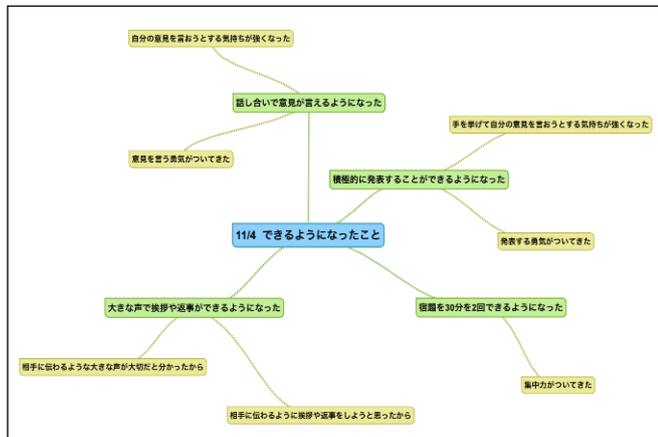


図 21 11月時の「SimpleMind」

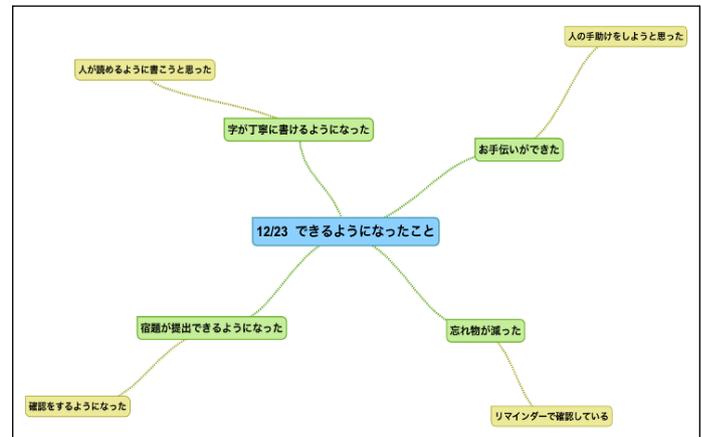


図 22 12月時の「SimpleMind」

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・持ち物の準備、宿題への取組、自分のすべきことの把握等、本人が苦手で他者の支援が必要だったことで、iPadを活用することで“自分1人で”できることが増えていった。
- ・iPadは、決められた使い方だけではなく、自分の状況に合わせてその使い方を変え、自分なりに活用することができた。また、必要ではない時には活用せず、自分の力で乗り越えようとする姿が見られた。これらのことから、本人自身が補助的にICTを活用することの有用性を感じてきているのだと考える。
- ・実践をとおして、本人は「少しずつできるようになったことが増えていき、自信につながり、勇気が出るようになった」と話してくれている。設定した目標を中心に、できることが増えていく中で自信が付き、もっと頑張ろうとする意欲につながり、次に頑張りたいことやできるようになりたいことを見つけ、何事にも積極的に取り組もうとする前向きな気持ちへとつながっていった。本人の言う「勇気」とは「一歩前に踏み出す強い気持ち」を表していて、本人が得た自信の積み重ねが次に本人の臨む「勇気」へとつながっていったのだと考える。

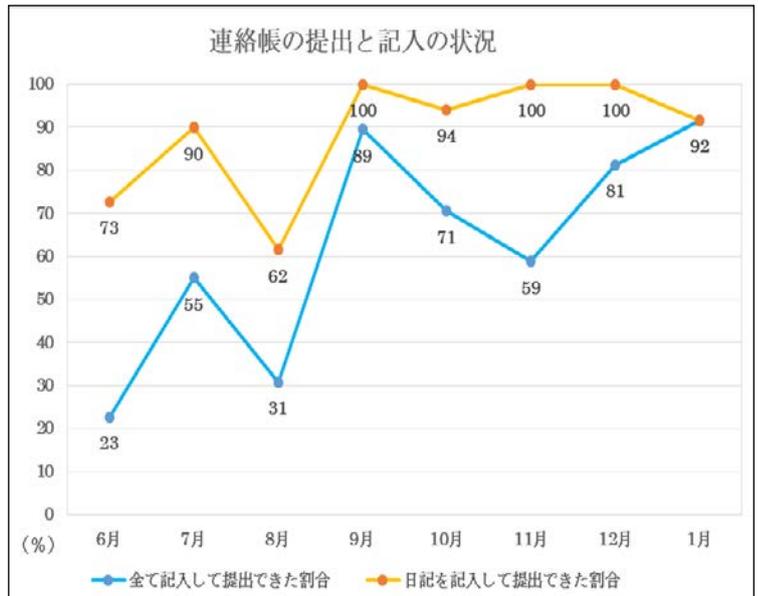
○エビデンス

<持ち物の準備をしたり期日までに提出物を出したりすることについて>

宿題や提出物の提出状況について、毎日提出することになっている連絡帳の提出と日付、時間割、持ち物、日記(今日の振り返り)の状況を記録していった。表3のとおり、取組開始時の6月から7月にかけて全て記入して提出できた日が増えいった。しかし、8月に減ってしまったため、**取組(1)ー3**の8月に記しているとおおり、取組を進めた。9月以降、全て記入して提出できた日は月ごとにばらつきがあるものの、日記を記入して提出できた日は安定して高い数値となっている。このことから、連絡帳の項目に書き忘れてしまう部分はあるものの、宿題として出されている日記を書いて提出することは定着してきていることがうかがえる。また、日記の内容を見ると、徐々に書く行数が増えるとともに、少しずつではあるが、内容も深まってきている(図23、24、25)。

家庭では、母の声かけや支援が必要な時があるものの、昨年度までと比べて宿題に取り組むことや翌日の準備をすることがスムーズにできるようになり、定着してきているとのことだった。

表3 「連絡帳の提出と記入の状況」



月 日(金)						今日の振り返り
1	2	3	4	5	6	
女子員会	ナ	い	い	い	い	
持ち物 (明日の持ち物、明日提出の課題、明日までにすべきこと)						

図23 4月時の連絡帳

9月 日(月)						今日の振り返り
1	2	3	4	5	6	
借	数	及	習	自	社	
持ち物 (明日の持ち物、明日提出の課題、明日までにすべきこと)						
マキルの振り返り						

図24 9月時の連絡帳

1月 19日(火)						今日の振り返り
1	2	3	4	5	6	
ナ	い	い	い	い	い	
持ち物 (明日の持ち物、明日提出の課題、明日までにすべきこと)						
マキルの振り返り						

図25 1月時の連絡帳

○その他エピソード

実践を振り返り、学校での様子や変化についてその都度家庭と共有してきた。家庭から、本人ができるようになったことについて、「連絡帳の日記を毎日忘れずに書けるようになった」

「家での学習が30分集中してできるようになった」「家の手伝いを最後までしっかりとしてくれるようになった」を挙げてもらった。さらに、「今まではできていなかったことが今では定着してきているとともに、『僕もやればできる』と言って、自信をもって取り組む姿が増えてきている」とのことだった。

自分の状況に合わせてながら本人が必要に応じて補助的にiPadを活用し、自信を積み重ね、学校・家庭生活を送っていくことができた。今後は学校卒業後の就労や生活も見据えながら、本人の生活をサポートするとともに「勇気」につなげていくツールとして、生活の中でICTを効果的に活用していくようにしていきたいと考える。



図26 状況に合わせて「リマインダー」のリストを増やしたり変化させたりしていった